

2020年11月30日第67回運輸政策セミナー
観光と地域交通～ポストコロナの時代を見据えて～
山内所長 全体講評

- ・ 本日のセミナーでは当研究所で実施した「観光と地域交通に関する研究会」における内容を踏まえ、観光地の視点、交通サービスの供給側、需要側の視点、そして政策・制度の視点、これらの4点の視点からの議論を行っていた。
- ・ 「観光と地域交通」というテーマを考える場合、それぞれの地域で実態が異なるとしても、地域の観光の実情と交通の問題をどのように整合させるか、また両者がもたらす効果をいかに引き出すかを大きな課題としてとらえる必要がある。一方では、地域の移動自体を観光化しようという試みがあり、他方、観光を振興する上で必要な地域の移動とは何かという、観光側から移動をとらえる視点もある。ただ大事なことは、いずれの場合であっても、新しい商品をいかに開発していくか、新しい事業をどのように起こしていくかという、起業家的な精神が必要だということである。そして、そのための手段として MaaS、IcT などいろいろな方策を戦略的に利用していく必要がある。
- ・ 「観光と地域交通」というテーマはどの時点でとらえるかによってポイントが異なる。現在は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっておりなかなか明るい将来を議論できないが、アフターコロナを考えれば今のコロナ禍の状況を「どう使っていくか」の視点しかないのではないか。アフターコロナを我々がどう作り上げていくのかを考えた時に、事業者も地域も変わっていかなければならない。移動制限がなされている今の状況では、交通サービスの提供を維持、継続するために、より直截な言い方をすれば運輸事業者が存続していくための何らかの救済措置は必要になるだろう。一方で、事業者側は、アフターコロナで何をするかを備えて、人口減少の世の中で、その地域交通をどう支えていくかを見据えた変わり方を考えなければならない。それはもちろん、スリム化、事業構造の変革が中心となろうが、前述のような新しいサービスの開発、新しい商品の提示が要請されることも事実である。
- ・ 本日のセミナーでは、費用負担のあり方、データ活用の手法、そして情報発信の課題についても話題にのぼり、良いヒントが得られたと思われる。新しい時代の地域交通、観光政策の議論の一助となれば幸いである。